

有限会社 堺屋商店

1869年(明治2年)創業

東武宇都宮百貨店側からオリオン通りを東に進むと、何とも懐かしいカツオ節の匂いが漂ってきます。その宮つ子にはおなじみの匂いの元は、オリオン通り商店街の中心に店を構える「堺屋商店」。今回は、創業141年の老舗乾物店を紹介しましょう。

地味な商品だからこそ、
商売は誠実・堅実に

堺屋商店の創業は明治2年。宇都宮城下が一昼夜燃え続けたという戊辰戦争の翌年、まだ幕末の混乱が残る宇都宮中心部に新潟出身の初代が米屋を開いたのが始まりです。廃藩置県の発令を経て宇都宮城の櫓や門の残骸が撤去され、県庁や郵便局などが整備され始めたのは明治5年頃。二荒山神社前の通りに御橋が架かり、曲師町から材木町を東西に結ぶ現在のオリオン通り・ユニオン通りにあたる通りが開通したのは明治23年のことでした。こうして歴史を照らし

てみると、町の骨格がかたどられる前に、そこが商業の中心地にな

ると見込んで江野町に開業した初代には、驚くべき先見の明が備わっていたことが窺えます。

その商売の才は昭和の時代に店を盛り立てた三代目へと引き継がれ、時を見て同店は米屋から乾物屋へと転業。昭和20年7月の宇都宮空襲により市の中心部は再び焼け野原となりましたが、全国でもいち早く復興した街並みとともに店も再興を果たしました。昭和24年頃の写真からも、軒先に大きなカツオの張り子を下げた店の繁盛ぶりが伝わってきます。

「戦前からオリオン通りでは七夕祭りを開催していましたから、きつこのカツオも七夕のお飾りとして作ったのでしょうか。この頃はカツオ節や煮干しが売れに売れた時代です」と話す現社長(四代目)の長島俊夫さん。写真の店舗はオリオン通りのネオンサイン開始に先だって昭和28年に建て替えたため、昭和47年から商売に携わった俊夫さんの記憶にはありません。「店もビルに変わりました

たが、時代とともに主力商品もちりめんじやこや小女子に変わりました。食生活が変化した今は、乾物専門店が生き残っていくのは難しい時代です。この場所だから100年以上も続けてこられたのだと思います。手堅く誠実な商売が基本、それが今の実感ですね」。

先代の背中を見て仕事を覚え、約40年間店を切り盛りしながら時代の変遷を目にしてきた俊夫さんにとって、現在のオリオン通りの状況は淋しいばかり。平成19年度の調査から約2割も減少した昨年度の宇都宮市中心部の歩行者通行量調査の結果には、「さすがに愕然とした」と言います。

「郊外型大型店が増えたことが大きく影響しています。しかし『宮カフエ』が話題になって、少しずつお客さんが戻ってきました。中心街に足が向くよう、オリオン通りを含めた近隣の商店街が結束して、さまざまな努力をしています」と中心部活性化に一役買いながら、「専門店が集まっているのが商店街の魅力」と専門店ならではの商品提供にも努めています。

例えば、店頭のガラスケースには常時10種類以上の国産ちりめんじやこが並び、手にとって味わい、



昭和24年頃、大きなカツオの張り子が目をひく旧店舗



平成15年(2003年)に建て替えた現在の店舗

有限会社
堺屋商店

宇都宮市江野町7番8号
☎028-633-2073

<URL>
http://
www.sakaiya-web.co.jp/

※このコーナーは隔月
で掲載します。

堺屋四代目店主の長島俊夫氏